

スモールグループで聖書を学ぶ意義 2020. 10, 10

東京フリーメソジスト教団 桜ヶ丘教会牧師、聖書を読む会理事長 水口 功

私は東京フリー・メソジストという教団の教会で牧師をしております。18世紀にイギリスの英国国教会の中でメソジスト運動を始めたジョン・ウェスレーの流れを引いた教団です。そのジョン・ウェスレーは、組会というスモールグループで信徒同士の分かち合いの実践を指導した人として知られています。私はウェスレーの組会の働きについて、かねてより関心を持ち、神学校の卒業論文、さらに教団の按手札論文で組会に関して取り上げるとともに、教会の現場でもスモールグループによる聖書の学びと分かち合いと祈りを通して、互いの信仰が成長していくことを願ってきました。

本日のスモールグループセミナーでは、すでに3人の発題者から「母国語でみことばを分かち合う幸い」、「みことばを互いに分かち合うスモールグループに力を入れて成長している最近のアジア諸国の教会の様子」、「みことばに向き合う姿勢で築かれている若い世代の人たちの成長の様子」が紹介されましたが、私は今、牧会している教会で昨年、今年と実施しているスモールグループでの聖書の学び、分かち合いの様子を紹介し、感謝と課題を見据えながらスモールグループの意義について展望します。私たちの教会で昨年、今年にかけて実施しているスモールグループは以下の3つです。

- ① 礼拝説教の分かち合い (年代別小グループ、今年は有志によるズームで)
- ② 聖書の日課の分かち合い (基本的には同じ聖書箇所を読んだ人同士、今は中断)
- ③ SYKの手引 (「ローマ人への手紙」) を用いたグローイングアップクラス
(リアルとオンラインの二本立て)

これらを通して経験している祝福と課題と展望を、以下に整理してみました。

(1) 祝福

- ① ただ聞きっ放しではなく、自分で聞いて考えたこと、疑問に思ったことを整理する中で、改めてみことばを求める機会となること。
- ② 他の人の発言から教えられること。
- ③ 3~7名の少人数なので、互いに聞き合うことが無理なくできること。
- ④ 分かち合いの後での祈りが、そこまでに聞いた課題に基づいて自然な形で移行できる。特に現在のコロナ禍での教会堂で行っている祈祷会は、互いに祈りあうことが制限されているので、オンラインで声に出して祈りあえることの喜びを実感していること。
- ⑤ シリーズで続ける場合は、次回の集まりが楽しみになること。

(2) 課題

- ① 牧師が司会者、学び会のリーダーであると、参加者の中でどうしても牧師に聞くことを求めてしまい、自分で考え、求めていくことを妨げてしまう。
- ② 今まで「分かち合う」という経験が少なかった人たちにとって、みことばから教えられたことを言葉にして伝えること、また自分がどう思い、どう行動していこうと思ったかについて、他の人に話すことが難しい、正解を言わなければと考え、

緊張する人たち（特に比較的年輩の人たち）が結構おられる。

- ③ 説教の分かち合いの会は同じメンバーで半年、一年単位での継続が望ましいが、各人の主体的な参加意識が乏しいと、マンネリに陥りやすくなる。そして十分に深い分かち合いを経験しないまま、グループのメンバーが変わった方が新鮮だといった表面的変化を追い求めがちになる。
- ④ その日に聞いたばかりのみことばの分かち合いは、十分に整理、熟成されず、表面的な感想の分かち合いになることがある。

(3) 展望

- ① 教会の中にみことばを分かち合うグループがあることは、互いにみことばに聞き、互いを知っていく上で有益。今は年代別で実施しているが、年代を越えたスモールグループが1年間継続すれば、世代を越えた交わりの機会となる。
- ② 牧師がスモールグループ活動に関心と重荷があると、教会のプログラムとして実現しやすい。しかし牧師だけでなく数名の信徒がスモールグループについての期待を持って活動していくと、教会員同士の信仰の成長、働きの拡大が期待できる。
- ③ 教会員の信仰の成長とは、ジョン・ウェスレーが組会で指導したような、互いに犯した罪の告白や、聖書日課や祈りについてなど、日常における信仰生活を、互いへの信頼関係を土台にして分かちあうこと、そしてそのような機会を週ごと、月ごとに定期的に続けていくことが望ましい。
- ④ 聖書を真剣に学び、分かちあうグループがあり、そこに未信の方が加えられるならば、彼らはクリスチャンたちのみことばに向き合う姿を見て、聖書、キリスト教信仰に感化を受け、その結果、伝道の結実を見ることができるとはならないか。

コロナウイルス感染対応のため、教会堂での集まりができなくなった時期や、集まりを再開したものの、集会の人数や、集会中にもともに賛美することを控えるといった制限を経験してきた中で、ズームミーティング形式での交わりは、双方向の交わりの手段として注目されています。スモールグループで聖書を学ぶ意義は、まさに双方向という特徴にあります。一方的に牧師からの説教、講義を聞くだけでなく、聞いた内容を自分はどう受けとめ、どう応えていくかを考え、それを他の人に分かちあうことで、自らの思いがさらに整理できます。そして他の人の発言から、新鮮な発見や気づきが得られることで、ただ聞くだけ以上の恵みをいただくチャンスが増えます。そういう意味で、スモールグループに不慣れな人たち、自分自身を開示していくことが苦手であると思っている人たちがいたとしても、それを理由にあきらめることなく、そういう人たちこそが、分かち合う喜びを経験できるようにと願っております。今後とも地域教会の中で、スモールグループによるみことばの分かち合い、祈り、聖書の学びなどの機会がさらに増えていくことで、生き生きした信仰を持つ人たちが起こされますように。またそういうクリスチャンたちの姿を見て、キリスト教信仰に魅力を感じ、主イエスへの信仰を求めていく人たちが起こされますように。